

# 下垂体疾患センター

## 鹿大病院あす新設

### 窓口一本化で患者負担減

鹿児島大学病院は3月1日、体のホルモン分泌をコントロールしている脳下垂体の病気を総合的に診療する「下垂体疾患センター」を新設する。脳神経外科や小児科、産婦人科など複数の診療科にまたがる患者の窓口を一本化し、円滑な治療方針決定や各科の連携を図る。下垂体センター設置は全国の国立大学病院で初めて。

下垂体は男性・女性ホルモンや甲状腺ホルモン、尿量を制御する

ホルモンなどを調節する重要な器官。ホルモンの調節がうまくいかないと高血圧、倦怠感、不妊など、さまざまな不調が現れる。

下垂体の周囲は性別、年代を問わず、腫瘍や炎症が起こりやすい。腫瘍は脳神経外科での手術や放射線治療で制御が可能だが、中にはホルモン機能の回復が不十分で、長い期間の薬物治療が必要な患者もいる。

する過程での治療は複数科の連携が欠かせないため、センターを設け、横のつながりを強化する。火曜日を統一

外来日に設定。複数科に渡る診察が1日で終わるため、患者の負担も軽減できる。

藤尾信吾センター長(39)は「腫瘍は良性が多く、適切なホルモン投与を続ければ通常の生活ができる。患者が健康に過ごせる治療を提案したい」と意気込みを語った。

(中村直人)

2017年2月28日付  
南日本新聞24面掲載